

Vol.209 発行: 2026.2.15 出雲市立総合医療 C 病院だより編集委員会

## 看護師養成奨学金 令和8年度奨学生募集

総合医療センターでは、看護師をめざす看護学生で、卒業後に当院で勤務を希望される方を対象とした奨学金貸与制度を設けています。令和8年度の奨学生を次のとおり募集します。

1. 対象者 (1)～(4)のいずれにも該当する方が対象となります。

- (1) ①看護師養成学校(大学・短大・専門学校等)に在学中の方 又は  
②令和8年4月に入学し令和11年3月又は令和12年3月に卒業予定の方
- (2) 看護師養成学校卒業年度に実施される、総合医療センター看護師採用試験及び看護師国家試験に合格のうえ、看護師養成学校を卒業後、直ちに総合医療センターに勤務する意思のある方
- (3) 地方公務員法第16条各号(欠格条項)に該当しない方
- (4) 出雲市が貸与する他の奨学金(出雲市奨学金・高野令一育英奨学金)の貸与を受けていない方

2. 募集人数 若干名

3. 貸与金額 月額50,000円(無利息)

4. 貸与期間 在学している看護師養成学校の正規の修学期間

5. 返還免除 総合医療センターで貸与期間以上の期間を勤務した場合、奨学金の返還は免除となります。

6. 申し込み 所定の様式(看護師養成奨学金貸与申請書兼誓約書)に次に掲げる書類を添えて、総合医療センター 病院総務課へ申し込みください。

様式は、総合医療センターのホームページからダウンロードできます。

【添付書類】(1)在学証明書 (2)住民票の写し (3)連帯保証人の印鑑登録証明書

7. 募集期間 令和8年3月2日(月)～4月10日(金)

8. 貸与決定 書類、面接による審査により、5月中旬に貸与の可否を決定します。

9. 問い合わせ 総合医療センター 病院総務課 電話(0853)63-5113

～看護師をめざす看護学生を応援しています～

# 高齢者にも起こる「てんかん」

## ～子どもだけの病気と思っていませんか？～

文責：神経内科（診療部長） 塩田由利

### ■ てんかんとは

脳の機能が乱れて（脳の神経細胞が突然興奮状態となる）、様々な症状（発作）を繰り返し起こす脳の病気で、乳幼児から高齢者まで幅広い年代に起こります。人口100人のうち0.5～1人が発症し、日本では約100万人のてんかん患者さんが存在しますので、誰もがかかる可能性のあるありふれた病気の一つといえるでしょう。

年代別に発症率をみると、小児期以降低下して初老期65歳以上で再び増加し、U字型カーブを示します（図1）。人口の高齢化によって近年、実は高齢で発症するてんかんが増えており、注目されています。

子どものてんかんの主な原因は、病因が明らかでない特発性や先天性の障がい、出産時の外傷、感染症、脳炎であるのに対して、高齢者のてんかんの原因は、脳卒中や認知症、頭部外傷や脳腫瘍などが約半数を占め、脳が何かしらのダメージを受けたことによって引き起こされるものが多いです（図2）。これらは高齢になると起きやすい病気であり、高齢者でてんかん発作がおきやすい原因ともなっています。

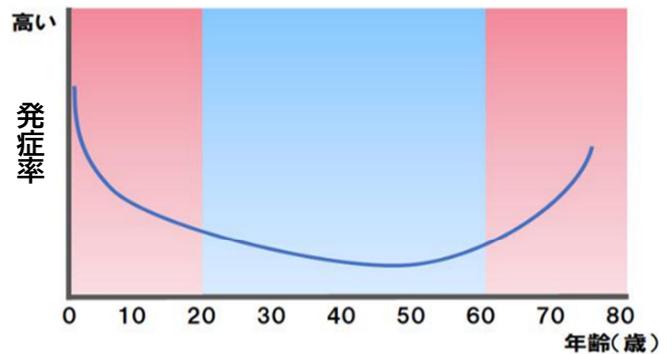


図1 年齢別てんかん発症数  
(Lancet Neurol.2006 5(2): 148-157 より改変)

### 高齢者のてんかんの原因

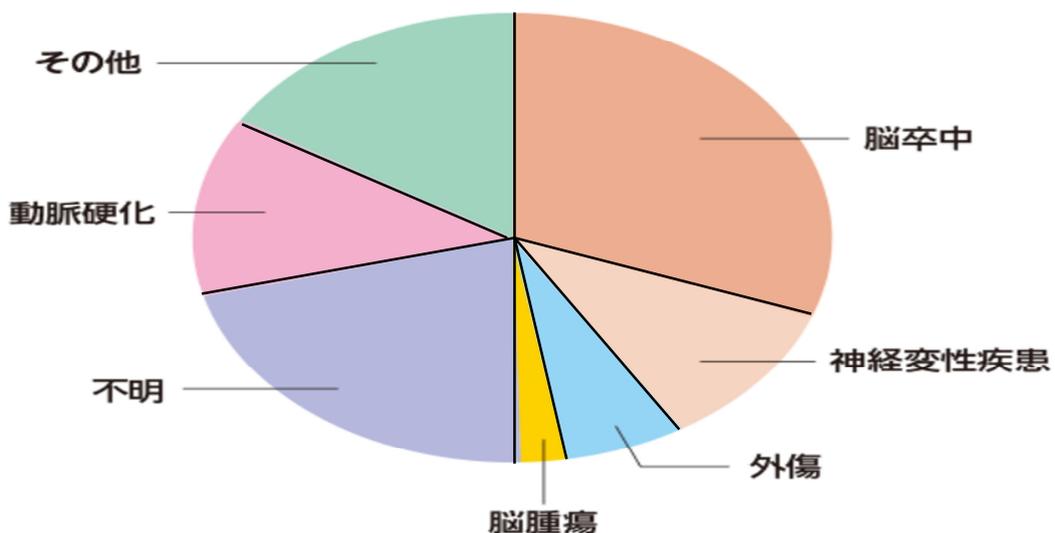
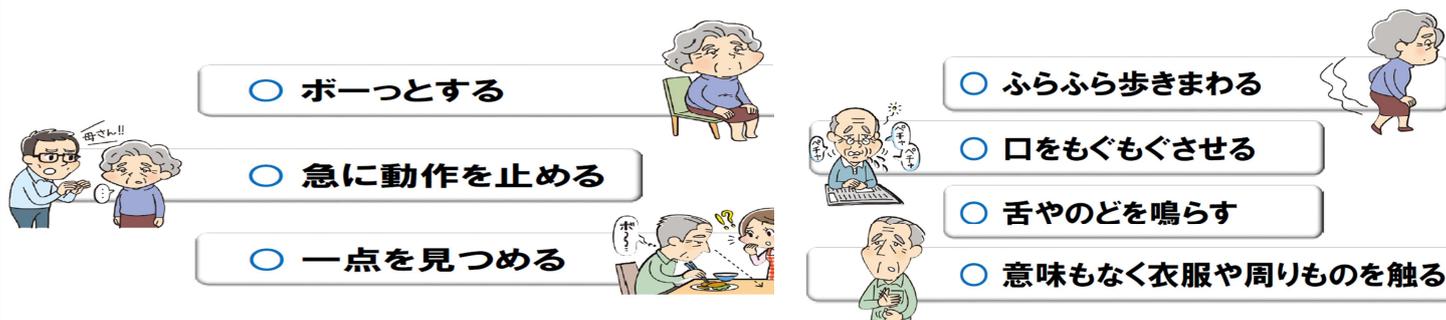


図2 高齢者のてんかんの原因  
(辻貞俊ほか、神経治療学 29巻 4号 p463)

## ■ てんかん発作の症状は様々～けいれん発作だけではありません～



## ■ 高齢発症てんかんの症状～見た目にはわかりづらいのが特徴～



約半数はけいれんを伴わないため周囲は気づきにくく、発作中の記憶がなく反応が鈍いので認知症と思われたり、他の病気や症状（脳血管障害、健忘症、精神・心理的な疾患、循環器系疾患、低血糖や脱水などで起こる電解質異常、薬の影響など…）と見誤ってしまうことも多いです。実際、脳血管障害や認知症などではてんかんを合併していることもあるので、正確な診断が大切です。

## ■ どのようにして診断しますか

まずは患者さんやご家族（または目撃者）からの症状に関する情報（発作の始まりの症状、持続時間、発作後の様子、意識やけいれんの有無など）がとても重要です。スマホで発作時の様子を動画にとって、医療者にみせていただくことも大変有用です。そして他の疾患と区別するため心臓や血管系、神経系の病気がないか検査・診察を進めていきます。特に脳波検査はてんかんの診断に必須の検査です。高齢者では脳の一部が傷つくことで起きるてんかんが多いので、頭部CTやMRIなども有用です。

## ■ 治療はどのように行いますか

内服薬（抗てんかん薬）による治療が基本です。高齢発症の場合は、初めての発作後の再発率が高いので、初回発作後から治療開始することが推奨されます。抗てんかん薬による治療効果は高く、少ない量でも効果があることが知られています。但し、合併する病気やその病気のために飲んでいる薬との兼ね合いや、副作用を考慮しながら慎重にお薬を選択します。

## ■ 当科からのメッセージ

人口の高齢化と検査や情報の進歩で、てんかんにも様々な症状があることが分かり、高齢で発症するてんかん患者さんが増えています。しかし周囲から気づきにくい症状のことが多く、てんかんであることを見逃してしまう可能性があります。適切な診断には家族や介護者など目撃者からの情報が重要です。気になる症状がありましたら、遠慮なく主治医や当科にご相談ください。